

ラオス

2021年10月29日
海外調査部・ビエンチャン事務所

2020年のラオスは、新型コロナウイルス禍で特に観光を軸としたサービス業が甚大な影響を受け、経済成長率はアジア通貨危機以来のマイナス0.5%に落ち込んだ。貿易では8カ所の発電所の完成により電力輸出が増大した一方で、経済活動が停滞したことで輸入が減少した。対内投資では中国から不動産、エネルギー、鉱山、農業などの投資は依然活発であった。2021年は新指導体制に移行し、第9期社会経済開発5カ年計画（2021～2025年）が開始された。このような中、対外債務問題への取り組みが最大の焦点となっている。

■新型コロナによりマイナス成長に転落

アジア開発銀行（ADB）によると、2020年の実質GDP成長率はマイナス0.5%と1997年のアジア通貨危機以後初めての景気後退となった。セクター別成長率は、農業が2.1%、工業が6.2%、サービス業がマイナス5.5%となった。農業は前年の天災の影響からの回復や、キャッサバや木材パルプの生産の増加などが貢献した。工業では主力の電力で、2020年にナムウー1・3・4連続ダム（発電容量522MW）など8カ所の発電所が商業運転を開始し、全国の発電所は81カ所（1万328MW）に拡大した。前年の干ばつの影響を受けたものの電力生産量は3万9,939ギガワット時（Gwh）と前年比で27.9%増加した。製造業では4月以降の厳格なロックダウンによる工場の操業停止や、サプライチェーン全体の混乱、需要の低下を受け、特に第2四半期に縫製品、電子部品などが低迷した。鉱物の採掘加工は主要な銅鉱山で埋蔵量や質が低下したことで大きく減少し、銅精鉱の生産が24万トンと前年比マイナス23.0%と落ち込んだ。サービス業はGDPの44.0%を占めるが、特に新型コロナ禍で外国人観光客が87万人（前年比82.0%減）となり、ホテル、レストランや航空など観光関連産業が甚大な影響を受けた。観光収入は前年比77.0%減となる2億1,000万ドルに落ち込んだ。

喫緊の課題である財政は、計画投資省によると2020年は歳入が前年比で14.5%減少した一方で、歳出は1.9%増加した。財政赤字は対GDP比で6.2%となった。現地通貨キープは対ドルで2020年を通じて4.9%下落した。また2020年末には非公認の両替店舗レートと中央銀行が定める公定レートの差が10%を超えた。世界銀行によると、公的債務は新型コロナ禍で悪化し、対GDP比で2019年の59.0%から2020年には72.0%に上昇したと分析している。2020年の公的債務返済額は12億ドルであった。格付け機関のムーディーズは8月、フィッチは9月にラオスを格下げし、投機的で安全性が低いと評価した。ラオス政府は現在、電力公社など国営企業の資産売却や債務整理を進めている。

ラオスは2020年を通して新型コロナの累計感染者数は41人とその抑制に成功していたが、2021年4月以降は、タイから帰国する労働者の感染例や市中感染の拡大により2021年8月までに1万人以上に増加した。8月には再び厳格な都市封鎖が南部カイトーンポムヴィハーン市や南部パクセー市などの

主要都市で実施されるなど予断を許さない状況となっている。

ADBは、実質GDP成長率は農業や発電、大型インフラプロジェクトが牽引し、2021年に4.0%、2022年には4.5%に回復すると予測している。しかし、新型コロナ禍が長引き観光業を中心とするサービス業の回復が遅れると、下振れする可能性もあるとみている。

■タイ向け電力輸出が大幅増加

ラオス商工省によると、2020年の輸出額は61億6,800万ドル（前年比5.2%増）、輸入は50億6,400万ドル（11.8%減）であった。新型コロナ禍で輸入が減少したことから貿易収支は11億400万ドルの黒字と、黒字幅が前年の1億2,400万ドルから拡大した。

輸出を品目別にみると、主力の電力は40.1%増の18億5,900万ドルとなった。エネルギー鉱山省によると3万2,351GWh（32.6%増）をタイや周辺国へ輸出した。鉱物は13億3,900万ドル（8.8%減）で、主力の銅・銅製品は6億4,347万ドル（37.6%減）と南部セボン鉱山が銅の生産を停止し金の採掘に切り替えたことが影響した。金および銀の輸出は4億9,348万ドル（2.3倍）となった。農畜産物・食品は16億7,300万ドル（5.1%増）で、大型家畜2億5,011万ドル（10.2%増）、天然ゴム2億1,452万ドル（1.4%減）、バナナ2億2,744万ドル（15.0%増）、キャッサバ2億963万ドル（88.0%増）、コーヒー8,589万ドル（33.5%増）、コメ5,272万ドル（2.2倍）と、感染対策で第2四半期に越境輸送の混乱がみられたものの、全体として好調であった。木材・木製品は3億2,600万ドル（10.5%減）で、うちユーカリなどを原料とするパルプが2億9,012万ドル（1.3%増）である。加工輸出である電子機器や縫製・靴製品の輸出はそれぞれ3億900万ドル（28.3%減）、2億9,300万ドル（14.5%減）と新型コロナ禍によるサプライチェーンの混乱や需要の減退の影響を受けた。縫製工業協会によると縫製品の輸出額の79.0%がEU向け、次いで9.0%が日本、3.0%が米国向けとなっている。

輸出を国・地域別にみると、1位のタイは27億4,500万ドル（14.0%増）で、電力16億8,494万ドル（34.9%増）、キャッサバ1億8,275万ドル（2.3倍）となった。2位の中国は14億6,700万ドル（14.2%減）で、銅4億3,694万ドル（26.6%減）のほか、新型コロナ禍で農産物輸出が停滞した。3位はベトナムで10億4,100万ドル（1.3%減）であった。上位3カ国で85.2%を占めた。日本は8,473万ドル（9.5%

表1 ラオスの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万米ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2019年		2020年		2019年		2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
電力	1,327	1,859	30	40.1	農畜産物・食品	984	1,033	20	4.9
鉱物	1,468	1,339	22	△ 8.8	機械および部品	1,121	993	20	△ 11.4
農畜産物・食品	1,592	1,673	27	5.1	化石燃料	796	611	12	△ 23.2
木材・木製品	364	326	5	△ 10.5	車両および部品	649	512	10	△ 21.2
電子機器	431	309	5	△ 28.3	鉄鋼	626	426	8	△ 31.9
縫製・靴製品	342	293	5	△ 14.5	電力	58	91	2	58.3
その他	339	369	6.0	8.9	その他	1,506	1,033	20	△ 31.4
合計 (その他含む)	5,864	6,168	100	5.2	合計 (その他含む)	5,741	5,064	100	△ 11.8

[出所] 商工省輸出入統計を基にジェトロ作成

表2 ラオスの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万米ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2019年		2020年		2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
アジア・大洋州	5,557	5,824	94	4.8	5,574	4,838	96	△ 13.2
日本	94	85	1	△ 9.5	88	136	2	54.4
中国	1,709	1,467	24	△ 14.2	1,512	1,128	26	△ 25.4
香港	59	50	1	△ 14.8	28	26	0	△ 9.2
韓国	5	11	0	113.9	59	48	1	△ 18.3
台湾	4	3	0	△ 5.1	20	15	0	△ 24.8
ASEAN	3,517	4,010	65	14.0	3,828	3,434	67	△ 10.3
タイ	2,407	2,745	45	14.0	3,109	2,818	54	△ 9.4
ベトナム	1,055	1,041	17	△ 1.3	651	555	11	△ 14.7
カンボジア	20	115	2	476.3	0	2	0	632.8
インドネシア	2	45	1	1912.0	25	17	0	△ 34.0
インド	104	109	2	4.5	22	27	0	21.2
オーストラリア	7	89	1	1177.4	16	24	0	50.6
EU27	103	125	2	21.9	70	54	1	△ 22.9
英国	23	23	0	2.9	17	7	0	△ 60.3
米国	30	32	1	6.7	41	87	1	109.7
合計 (その他含む)	5,864	6,168	100	5.2	5,741	5,064	100	△ 11.8

[注] アジア・大洋州は、ASEAN+6（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）に香港、台湾を加えた合計値。

[出所] 商工省輸出入統計を基にジェトロ作成

減)で、靴製品2,525万ドル(13.3%減)、縫製品1,721万ドル(25.6%減)、コーヒー289万ドル(40.4%減)と減少した。一方、電子機器は1,807万ドル(40.3%増)となった。

輸入を品目別にみると、農畜産物・食品が10億3,300万ドル(4.9%増)であった。生きた家畜の輸入は3億2,080万ドル(36.5%増)であった。一部はラオスで肥育し中国向けの輸出を計画したものとみられる。飲料は2億2,183万ドル(6.3%増)であった。一方、果物3,647万ドル(36.0%減)、タバコ3,453万ドル(28.6%減)、アルコール飲料1,999万ドル(46.2%減)と新型コロナ禍の消費減退が影響したとみられる。機械および部品は9億9,300万ドル(11.4%減)、また鉄鋼は4億2,600万ドル(31.9%減)となった。新型コロナ禍で大規模インフラ建設の機材や資材の輸入が停滞した影響とみられる。また、化石燃料は6億1,100万ドル(23.2%減)、車両および部品は5億1,200万ドル(21.2%減)と行動制限の影響を受けて落ち込んだ。

輸入を国・地域別にみると、1位のタイは28億1,800万ドル(9.4%減)、2位の中国は11億2,800万ドル(25.4%減)となった。特に中国からの主力輸入品の鉄鋼は2億3,400万ドル(34.1%減)に減少した。3位のベトナムは5億5,500万ドル(14.7%減)となった。これら3カ国で全体の85.6%を占める。一方、日本は1億3,600万ドル(54.4%増)となった。これは大規模投資などのプロジェクトに伴う機械輸入が6,275万ドル(7.3倍)と増大したことによるもの。また、車両および部品は4,088万ドル(18.1%減)であった。

なお、2021年上半期の貿易については、カンペン・サイソムペング商工相が8月に行われた臨時国会にて、前年同期比で輸出が33.0%増、輸入が20.0%増となったと報告している。

■中国からの投資が多様化

商工省によると、2020年の対内直接投資額(登録ベース、自国投資含む)は168億5,400万ドル(74.5%増)であった。業種別にみると、伸び率が高かった分野は、農林水産業(62億7,700万ドル、5.6倍)、職業斡旋・観光・警備・清掃など(11億700万ドル、7.8倍)、上下水道・廃棄物処理(2億3,300万ドル、8.7倍)であった。国別にみると中国82億4,800万ドル(85.1%増)、ラオス61億9,300万ドル(59.8%増)、タイ13億8,900万ドル(3.8倍)で、これら上位3カ国で94.0%を占める。

中国からの投資では、首都ビエンチャン中心部のショッピングエリアであるタラートサオの再開発、コンドミニウム建設など不動産投資、カリウム鉱山開発への2億元(約48億円)の追加増資、ラオス中部での工業用火薬工場への4,557万ドルの投資、ナムグム1ダムの湖面を利用する1,200MWの水上太陽光発電事業、総額90億ドルを投資する南部シータンドン経済特区開発などの大規模投資が進んでいる。また、首都のサイセター総合開発区でのLEDライト製造工場など製造業分野の進出もみられるようになってきた。農業分野では熱

表3 ラオスの国・地域別対内直接投資<登録ベース、グロス>

(単位:100万ドル、%)

	2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率
アジア大洋州	9,626	16,625	98.6	72.7
日本	36	56	0.3	56.2
中国	4,455	8,248	48.9	85.1
韓国	68	110	0.7	61.8
ASEAN	4,930	8,145	48.3	65.2
ラオス	3,876	6,193	36.7	59.8
タイ	361	1,389	8.2	284.8
ベトナム	649	509	3.0	△21.5
マレーシア	22	25	0.1	15.2
シンガポール	15	8	0.0	△47.4
インド	13	15	0.1	17.5
オーストラリア	124	50	0.3	△59.4
欧州	18	158	0.9	789.9
EU27	10	102	0.6	917.0
フランス	7	73	0.4	935.7
英国	8	57	0.3	626.9
北米	7	57	0.3	675.7
米国	7	47	0.3	548.6
合計(その他含む)	9,657	16,854	100	74.5

[注] アジア・大洋州は、ASEAN+6(日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド)に香港、台湾を加えた合計値。

ラオス企業による対内投資を含む
[出所] 商工省企業登録管理局

帯果樹への投資が増加したほか、中国政府がラオスに対して50万頭の牛・水牛の輸入クォーターを付与したことから、肉牛肥育への投資が増加している。

タイからの投資では、通信大手ラオテレコムによる5G通信の整備と正式利用開始や同社の子会社ラオモバイルマネーによるEウォレット事業がある。政府系の発電会社BCPGによる600MWの風力発電事業や、RATCHグループによる木質ペレット生産事業などには、日系企業も参画する動きがみられた。発電分野ではメコン川本流を開発するルアンパバンダム(1,460MW)のアクセス道路の建設も開始された。

ベトナムからの投資ではラオス国防省との合弁会社である通信会社スター・テレコムはルアンパバン市のスマートシティ事業を推進し、またその子会社スターフィンテックは、モバイル決済システムを店舗での支払いのみならず、地方公務員給与の支払いに活用するなど積極的に拡大を進めている。またビナミルクによる大規模畜産事業の増資も行われた。ラオス企業では、シテロジスティックがラオス政府と合弁で1億5,000万ドルを投資してビエンチャン郊外にドライポートとロジスティクスパークの建設を行うタナレンドライポートおよびビエンチャン・ロジスティクスパーク事業が開始された。中国ラオス鉄道の開通に加え、物流効率化によるコスト削減が期待されている。

日本企業は新型コロナ禍で新たな進出の動きは鈍化したが、既述の風力発電や木質ペレットなどタイ企業と連携した動きがみられた。なお、在ラオス日本大使館によると進出日本企業は163社となった。

■新5カ年計画が始動、財政赤字・対外債務対応が鍵

2021年は、1月に5年に一度の第11回人民革命党大会、2月に第9期国民議員選挙が実施され、3月の国会にてトンルン・シースリット国家主席、パンカム・ヴィパワン首相を指導者とする新指導体制に移行し、第9期社会経済開発5カ年計画(2021~2025年)がスタートした。経済成長率を年4%以上とし2025年までに1人当たりGDPを2,887ドル、1人当たり国民総所得(GNI)を2,280ドルとする比較的穏やかな目標とした。同時に質の高い安定した持続的な成長を目指し、人的資源開発、物質的・精神的な国民生活の向上、環境保全、インフラ強化、ガバナンス強化を打ち出した。中でも、新型コロナ禍で歳入が低迷する中、公的対外債務は対GDP比57.0%に達した(世銀2021エコノミックモニター)。パンカム新政権は8月に臨時国会を召集、経済財務問題に関する国家アジェンダを策定し、税関連法を改正、2023年までに成果を出すように指示した。ラオスは2021~2025年で年平均13億ドルの公的対外債務支払いが必要となっており、綱渡りが続く。2021年12月にはラオスの首都ビエンチャンと中国国境沿いのポーテンを結ぶ中国ラオス鉄道が開通するが、今後はその経済効果が試されることになる。加えて、新型コロナ禍で予断を許さない状態が続く中、ラオス政府の舵取りが注目される。

表4 ラオスの業種別対内直接投資
＜登録ベース、グロス＞

(単位: 100万ドル、%)

	2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率
農林水産業	1,115	6,277	37.2	463.0
卸・小売・自動車修理	3,444	2,412	14.3	△ 30.0
電気・ガス	1,184	2,140	12.7	80.8
建設	1,017	1,563	9.3	53.7
職業斡旋・観光・警備・清掃など	141	1,107	6.6	683.3
製造	826	626	3.7	△ 24.2
鉱業	494	622	3.7	25.9
金融・保険	261	613	3.6	134.6
ホテル・レストラン	267	361	2.1	35.3
科学技術	237	290	1.7	22.1
不動産	253	256	1.5	1.4
上下水道、廃棄物処理	27	233	1.4	765.1
運輸・倉庫	150	197	1.2	31.4
健康医療	30	34	0.2	10.5
情報通信	115	30	0.2	△ 73.8
教育	38	30	0.2	△ 20.9
エンターテインメント	23	5	0.0	△ 79.2
その他	34	57	0.3	69.7
合計	9,657	16,854	100	74.5

(注) ラオス企業による対内投資を含む
(出所) 商工省企業登録管理局

主要経済指標

	2018年	2019年	2020年
①人口：723万人（2020年）			
②面積：23万6800km ²			
③1人当たりGDP：2,626米ドル （2020年）			
④実質GDP成長率（%）	6.2	4.7	△ 0.5
⑤消費者物価上昇率（%）	2.04	3.28	5.07
⑥失業率（%）	9	9	20
⑦貿易収支（100万米ドル）	△ 438	124	1,104
⑧経常収支（GDP比（%））	△ 13.1	△ 12.1	△ 7.3
⑨外貨準備高（100万米ドル）	944	1,068	1,393
⑩対外債務残高（100万米ドル）	16,732	17,073	18,353
⑪為替レート（1米ドルにつき、 キープ、期中平均）	8,401	8,679	9,046

〔出所〕①②⑤：ラオス計画投資省統計センター、③⑨⑪：IMF、④⑧⑩：アジア開発銀行、⑥：ラオス労働社会福祉省、
⑦：ラオス商工省

（お問い合わせ先）

海外調査部 アジア大洋州課

ORF@jetro.go.jp